

## 100年超の蓄積を新分野に注ぐ 英企業と提携し業界の課題解決へ 洋上風力監視・指令の総合管理センターを展開

イギリスのSeaRoc Group社と業務提携し、自社開発システムも含めて洋上風力発電分野における監視ソリューションの発展を推進する日本無線。同社マリンシステム営業部国内担当部長の中島修一氏に、今後の展望を聞いた。

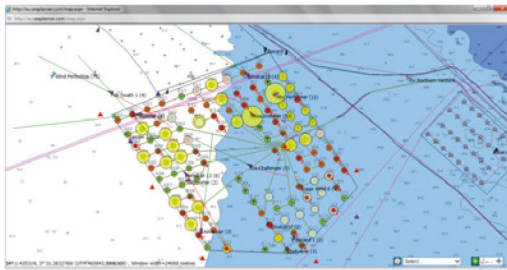
### MCC: Marine Coordination Centre (陸上指令センター)



### レーダー監視システム



### 海洋ソリューション



SeaRoc  
GROUP  
SeaPlanner



### 提携企業の実績とノウハウに 自社開発の技術をプラス

日本無線は創業100年以上の歴史のなかで、情報通信の様々なフィールドで技術と経験を培ってきた。

洋上風力発電の分野では、海外で圧倒的な実績を誇るイギリスのSeaRoc Group社と業務提携し、日本の洋上風力発電事業の成功をバックアップする。同時に、発電施設周辺の漁業協調や地域振興も支援していく。

その中で、特に注目されるのが「MCCシステム」。作業船および周辺海域を航行する船舶の監視、作業船とその乗組員の管理などのほか、気象情報を取得して効率の良い作業ができるようにシミュレーションするなど、洋上風力発電の監視・指令に最適な総合管理システムだ。

これから日本の洋上風力発電は、急速に発展していく。その発展を支えるソフトとハードと人材育成には、確実な実現性と実績が重要となる。日本無線の特長は、すでに実績があるSeaRoc Group社のソフト技術と

人材育成ノウハウと共に、自社開発した船舶動静情報や気象情報のクラウドシステム、レーダーAIS制御表示装置、監視レーダーなどを組み合わせ、日本の洋上風力発電プロジェクトごとにマッチしたMCCシステムの提供と、そのシステムを活用しプロジェクトを成功に導く人材育成ができることにある。確実な実現性と実績のいずれにおいてもハードルをクリアしているのだ。

また、日本には洋上風力発電の経験値がほとんどないため、洋上風力発電の建設・運用で監視・指示できる技術者が不足しているといった課題がある。業界が発展するには「失敗が許されない洋上風力発電事業にかかる巨額の投資をいかに成功に導けるかが重要であり、そのためには欧州レベルに加え日本での最適化された監視・指令システムが必要になる。当社にはそのソリューション供給力・サービス力・教育ノウハウがあります」と、同社の中島修一マリンシステム営業部国内担当部長は話す。

建設から運用までの安全性を担保し、事業の効率化を実現する同社の監視・指令システムは、今後さらに重要性が増してくるだろう。

### ● 日本無線 先端技術センター

## JRC 日本無線株式会社

日本無線株式会社  
東京都中野区中野4-10-1  
中野セントラルパークイースト  
TEL:03-6832-1721(代表)  
www.jrc.co.jp



### お話を聞いた人

日本無線株式会社  
マリンシステム営業部  
国内担当部長  
中島修一氏

